

エルサルバドル政治経済月報 (2022年6月分)

2022年7月
在エルサルバドル大使館

内政

1. ブケレ大統領の支持率に関する世論調査

(1) 当地主要紙「ラ・プレンサ・グラフィカ」紙（反政府系）は、ブケレ大統領が就任4年目を迎える6月1日のタイミングで、同大統領に関する世論調査の結果を発表。主な結果は以下の通り。

ア ブケレ大統領の働きぶりを支持するかどうか

- ・ 支持 : 86.8%
- ・ 不支持 : 9.1%
- ・ 分からない・無回答 : 4.1%

イ ブケレ大統領の成果はどの点か（上位3項目）

- ・ 治安状況の改善 : 13.2%
- ・ 犯罪組織対策 : 8.8%
- ・ 新型コロナウイルス対策 : 8.0%

ウ ブケレ大統領の失策はどの点か（上位3項目）

- ・ ビットコイン : 7.5%
- ・ インフレ : 4.4%
- ・ 経済政策 : 3.9%

エ エルサルバドルの置かれている状況をどう評価するか

- ・ 良い状況 : 56.3%
- ・ 悪い状況 : 20.1%

オ エルサルバドルが進んでいる道は正しいか間違っているか

- ・ 正しい : 63.3%
- ・ 間違っている : 15.0%

2. ブケレ大統領教書演説

6月1日、ブケレ大統領は国会で大統領教書演説を行い、ブケレ政権3年間の成果について報告を行った。その概要は以下の通り。

(1) 我々は犯罪組織との戦争にほぼ勝利を収めようとしている。この勝利は、国家文民警察（PNC）、エルサルバドル軍、政府にとっての勝利のみならず、祖国を愛する全ての人々にとっての勝利である。この戦いは、（新型コロナウイルスの）パンデミックを含め、これまでで最も困難なものであったが、勝利するために戦い続ける。

(2) 野党勢力やNGO団体等が全く異なる方法を望んだとしても、この3年間で成し遂げられた治安面における良い成果を否定することはできず、エルサルバドルは、国民が長年願ってきた「人々が平和に暮らせる国」という現実を実現しようとしている。1992年に戦争は終わらず、形を変えて継続され、国民は、内戦の当事者たちによって暴力の犠牲者であり続けた。犯罪組織による暴力のみならず、国家を略奪した政治エリートたちの暴力によって国民は苦しみ、保健、教育の制度は放置され、移民問題、格差、機会の欠如の問題は悪化した。そして、これらは犯罪組織の成長にとって格好の条件となった。

(3) 犯罪組織対策のために、内戦時と同様に、数十億ドルが国際社会から資金提供されたが、国民共和同盟（ARENA）及びファラブンド・マルティ民族解放戦線（FMLN）によって、犯罪組織という癌が増長され、より良い国家を望む国民の希望がないがしろにされてきた。過去30年間で、12万人以上のエルサルバドル人が犯罪組織によって殺害され、その他にも多くの者たちが行方不明と

なり、恐喝や窃盗に苦しめられてきた、そして、その被害者の多くは罪のない者たちであった。

(4) 犯罪地域コントロール計画の展開により、治安当局の能力を向上し、刑務所内のギャング団の影響力を排除した。同計画の第 2 フェーズより、暴力の被害を受けたコミュニティに対する支援を開始し、それらコミュニティにおいて、犯罪組織の種が生じる原因を根絶する取り組みを始めている。そして、同計画の第 4 フェーズによって、PNC 及びエルサルバドル軍の人員を増強した。ブケレ政権 3 年間で、殺人事件が発生しなかった日は 128 日を数えるが、その前の三つの政権で殺人事件が発生しなかった日はわずか 1 日であった。

3. 新思想党によるエルサルバドル・米国外交関係樹立 159 周年に関する国会声明の発出拒否

(1) 6月14日付「エル・ディアリオ・デ・オイ」紙（反政府系）は、政権与党新思想党（NI）所属の国会議員たちが、ARENA のポルティージョ会派長が要請したエルサルバドル・米国外交関係樹立 159 周年に関する国会声明の発出を、反対多数で拒否したと報道した。

(2) 報道によれば、ポルティージョ会派長は、7月15日は、エルサルバドルと米国の外交関係樹立日であることから、米国によるエルサルバドルへの長年の協力を感謝し、両国の友情を記念するための国会声明を発出するためのイニシアティブを提出したが、NI 所属の議員が安定多数の議席を確保する国会は、昨年引き続き、本年も国会声明の発出を拒否した。

(3) 同紙は、ブケレ政権はトランプ前米政権とは良好な関係を築いていたが、バイデン政権発足後、エルサルバドル・米国関係は冷え込んでいるとしている。

4. ドウラン・サンサルバドル市長の 2024 年市長選挙への出馬表明

6月22日、討論番組「Frente a Frente」に出演したドウラン・サンサルバドル市長は、2024年2月に予定されるサンサルバドル市長選挙への出馬を表明した。同市長は、再選について、全ての市長は再選されることを望んでおり、再選への意欲は当然のことある、自分はサンサルバドル市の住民に対し責任を有しており、現在進めているサンサルバドル市中心部の再開発を見届けたいと述べた。

5. 新政党設立への動き

(1) 6月26日、新政党設立を目指す政治団体「市民の力（Poder Ciudadano）」のお披露目会が行われた。同政治団体のメンバーは最大野党 ARENA の離党者を中心に、左派 FMLN の離党者も含まれている。中心メンバーとして、ロサレス国会議員（2021年国会議員選挙に ARENA から出馬し当選するも、その後同党を離党）、バケラーノ元国会議員（元 ARENA）、レジェス元国会議員（元 ARENA で米国政府が発表した汚職者リスト「エンゲル・リスト」に名前が含まれている）等が名前を連ねている。

(2) アルバレス元ソヤパango市長（元 ARENA）は、「市民の力」の結成は、従来とは異なる積極的な野党として、政府とも是々非々で協力していく関係を築くためと説明し、一例として、ARENA や FMLN が反対している憲法で保障される権利の一時的制限措置について、「市民の力」は支持すると述べた。

(3) 報道によれば、二大政党制を確立していた ARENA 及び FMLN が党員の相次ぐ離党による弱体化に苦しむ一方、「市民の力」の他にも 2024 年の選挙（大統領選挙、国会議員選挙、全国市長選挙）に向けて新政党の設立を目指す動きが目立ち始めている。エルサルバドルの現行の選挙制度では、党の鞍替えを行った国会議員や市長は、次の選挙には出馬できない（1期をまたぐ必要がある）と定められているが、政権与党 NI と協力関係にある国民統合のための大連合（GANA）所属のアウエルバッチ国会議員は、絶対安定多数の議席を有する NI の意向次第でかかる規定は変更可能であり、「市民の力」のような新政党からの出馬を目指す元 ARENA や FMLN のメンバーは、自身が 2024 年の選挙に出馬することを可能としてもらうことを条件に、NI に協力することになるのではないかとの考えを示した。

1. ヒル外務大臣の第9回米州首脳会議への出席

(1) ヒル外務大臣はエルサルバドルを代表して、米国ロサンゼルスで6月8日から開催されていた第9回米州首脳会議に出席した。同会議では、「持続可能で強靱で公平な未来を創る」をテーマとし、米州大陸における保健体制強化、環境、デジタル・トランスフォーメーション（DX）、エネルギー、民主的ガバナンスの課題が話し合われた。

(2) ヒル外務大臣は、米州首脳会議は、米州大陸の発展及び同大陸に住む人々の福祉向上のためのコンセンサス、相乗効果を生み出し、戦略的な決断をとるための場であると述べた。その上で同外務大臣は、同首脳会議が開催し始められてから28年たったが、米州大陸に住む人々は依然、これらの人々の日々の生活に影響を与える国境を越えた様々な問題に対する現実的な解決策を求めており、その要求に応えるために、地域の国際機関は変革する必要があると述べた。

(3) ヒル外務大臣は、発足3年を終えたブケレ政権の成果について説明し、同政権は、国民の多くを暴力、貧困、阻害、不平等の条件下に押し込め、一部の者の利益のためだけに実権を握ってきた権力者（poderes facticos）との闘いに取り組んでいる旨述べた。また、ブケレ政権の全ての取り組みは国民の政治、社会、経済、文化の分野における要求に応じるためのものであり、まだ、歴代政権が残してきた歴史的負債の返済に取り組んでいる段階にあり、望む場所には到達していないが、エルサルバドルが過去30年間で成し遂げたものを超える発展を遂げている旨述べた。

(4) また、ヒル外務大臣は、エルサルバドルの民主主義の状況に国内外から批判の声が寄せられていることに言及しつつ、これらの批判は歴史的、学術的根拠のないものであり、他国における残虐行為には目をつむってきたと批判し、このような態度は、国家間の建設的な関係構築には何の役にも立たないと強調した。

(5) 更に、ヒル外務大臣は、効率的なワクチン接種システムなどの新型コロナウイルス対策における成果や、学生に対するパソコン等の供与を通じたDX政策について説明を行った他、気候変動や不法移民の問題についても言及した上で、エルサルバドルはこの第9回米州首脳会議で話し合われた地域の諸問題に対し、各国と協力して取り組んでいく意思を有している旨改めて表明した。

2. ベントレル駐エルサルバドル米臨時代理大使の記者会見

(1) 6月24日、同26日に当国での任期を終えるベントレル駐エルサルバドル米臨時代理大使が記者会見を開き、米国は犯罪組織との闘いに強くコミットしており、この問題は地域の問題かつ、米国・エルサルバドル両国が共有する関心事項である、ブケレ政権の犯罪組織対策を米国政府は認めており、エルサルバドルの治安情勢は改善していると述べた。その一方で、3月末より行われている憲法で保障される権利の一時的制限措置については、人権侵害、恣意的身柄拘束、身柄拘束者の死亡事案の発生などから、持続可能な政策ではないと批判した。

(2) また、同米臨時代理大使は、治安政策には長期的な視点が必要であり、民主主義においては、全ての容疑者は透明性が確保された司法制度によって裁かれなければならないが、エルサルバドルには現状そのような条件は整っておらず、憲法で保障される権利の一時的制限措置が解除された後、多くの無実の者たちが、犯罪者と一緒に刑務所に収容されることになるとの懸念を表明した。

(3) 更に、同米臨時代理大使は、米国が身柄引き渡しを要請しているMS-13幹部アルマンド・エリウ・メルガル・ディアス容疑者、通称「ブルー」の名前を言及しつつ、ブケレ政権は米国が行っている犯罪組織幹部の身柄引き渡し要請に早急に応じるべきであると述べた。他方で、未成年者虐待の容疑で米国が身柄引き渡しを要請していたフランクリン・アントニオ・カルカモ容疑者の身柄引き渡しが行われたことについて言及し、これは大きな進捗であると評価した。

3. 邱小琪中国ラ米カリブ担当特使とブケレ大統領の会談

(1) Ou 駐エルサルバドル中国大使は、自身のツイッターにて、6月25日及び26日、エルサルバドルを訪問した邱小琪中国ラ米カリブ担当特使がブケレ大統領と会談し、二国間協力及び国際情勢における両国の共通の関心事項について意見交換を行った旨発表した。

(2) 同ツイッターによれば、邱小琪特使はブケレ大統領との会談に先立ち、ミラ外務大臣代理とも会談し、中国エルサルバドル二国間関係に関する多岐にわたるテーマ及びマルチ協力について話し合った。

4. ヒル外務大臣のヨーロッパ訪問

(1) 6月24日、ヨーロッパを訪問中のヒル外務大臣は、グランディ国連難民高等弁務官とジュネーブの国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 本部で会談し、ブケレ政権が実施している公共政策、プロジェクトに対する UNHCR による支援に感謝の意を表明した。また、同外務大臣は、エルサルバドルが積極的に関与している「米州における保護と解決のための地域統合フレームワーク (Marco Integral Regional de Proteccion y Soluciones par las Americas: MIRPS)」の取り組みについて説明するとともに、社会ネットワークの構築を通じて、暴力問題の予防のために若者への様々なセミナーを実施するエルサルバドルにおける福祉・機会都市センター (CUBOS) の取り組みに対する UNHCR の支援に謝意を表明した。これに対し、グランディ高等弁務官は、昨年11月にエルサルバドルを訪問した際にブケレ大統領とも会談し、視察した CUBOS の影響力について理解している旨述べた。更に両者は、MIRPS の次の行動について意見交換を行った。

(2) 6月27日、ヒル外務大臣はスイスにて、バチエレ国連人権高等弁務官と会談し、人権分野における国際的勧告に対するフォローアップの重要性という両者の関心事項及び技術協力の強化の可能性について、意見交換を行うとともに、ヴィトリノ IOM 事務局長と会談し、人の移動に関わる分野におけるブケレ政権の取り組みについて意見交換を行った。

経済

1. S&P 社による格付け評価

(1) 6月1日、スタンダード・アンド・プアーズ・グローバル・レーティング社 (S&P) は、エルサルバドルの格付け評価を B- から CCC+ に格下げした旨発表した。今発表により、世界三大信用格付会社である S&P 社、ムーディーズ・インベスターズ・サービス社 (Moody's) とフィッチ・レーティング社 (フィッチ) 全てが当国格付けをカテゴリー「C」とした。

(2) S&P 社は、当国の資金調達必要性は非常に高く、短期国債 (LETES) 及び1年物短期国債 (CETES) に大きく依存している状態が続いているとした。右国債は現在25億ドル (GDP 比 8%) と過去最高水準に達しており、当国の公的債務は2025年まで対 GDP 比 80% を上回る旨指摘した。

(3) また同社は、当国が取り得る資金調達方法として、年金改革、特別引出権 (SDR) や法定準備預金率の引き下げ等を挙げているものの、当国の政策決定には予測性がなく、前例のない権力の集中によりバランスを欠いているとした。

(4) さらに S&P 社は、今後6か月から18か月以内に財政赤字やリファイナンスの必要性に応じた十分な資金を確保できない場合、再び当国の格付け評価は下がる可能性があるとの見方を示した。

3. 5月のインフレ率の発表

(1) 6月7日、エルサルバドル中銀 (BCR) は5月のインフレ率が前の年の同じ月と比べてプラス7.48%を記録した旨発表した。同数値は直近26年間において最も高い数値となった。

(2) 統計調査総局 (DIGESTYC) の品目別データによれば、本年4月の食料・飲料 (酒類を除く) 部門は、前年同月比プラス10.89%と他品目と比べ最も高い数値となり、また本年4月の基礎的食糧バスケットは、都市部で223.86ドル (前年同月比、プラス23.73ドル)、農村部で163.93ドル (前年同月比、プラス20.16ドル) となった。

(3) ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC) はその前日の 6 月 6 日、食料品の価格上昇は貧困の増加に繋がる旨警鐘を鳴らし、エルサルバドルの貧困率が 1.0% (注: ECLAC によれば、2021 年の貧困率は 26.4%) 上昇する可能性がある旨指摘した。また食料品の価格上昇は貧困層のみならず、下位中間層及び中間層にも影響を与えると説明した。

4. 世界銀行による経済見通し

(1) 6 月 7 日、世界銀行は 2022 年における当国の経済成長率の見通しを本年 4 月に発表した 2.9% から 2.7% に下方修正した。結果、当国は引き続き中米諸国で経済成長率の予測値が最も低い国となった。

(2) 当国もウクライナ危機、中国の新型コロナウイルス感染症に対する厳しい政策、物流危機やスタグフレーションといった世界情勢に晒されており、マルパス世界銀行グループ総裁は「多くの国にとって景気後退を防ぐことは困難である。」と指摘し、スタグフレーションのリスクが更に高まっているとした。また、世界銀行は本年の世界経済の成長率の見通しを 4.1% から 2.9% に下方修正した。

(3) 世界銀行は 2022 年にインフレ率が落ち着くと予想しているものの、インフレ率が引き続き上昇する場合は、幾つかの新興市場国及び発展途上国で金融危機が生じ、それに伴い世界経済が停滞する可能性もあるとの見方を示した。

(4) 世界銀行が今回発表した 2022 年の中米諸国の経済成長率の見通しは以下のとおり。

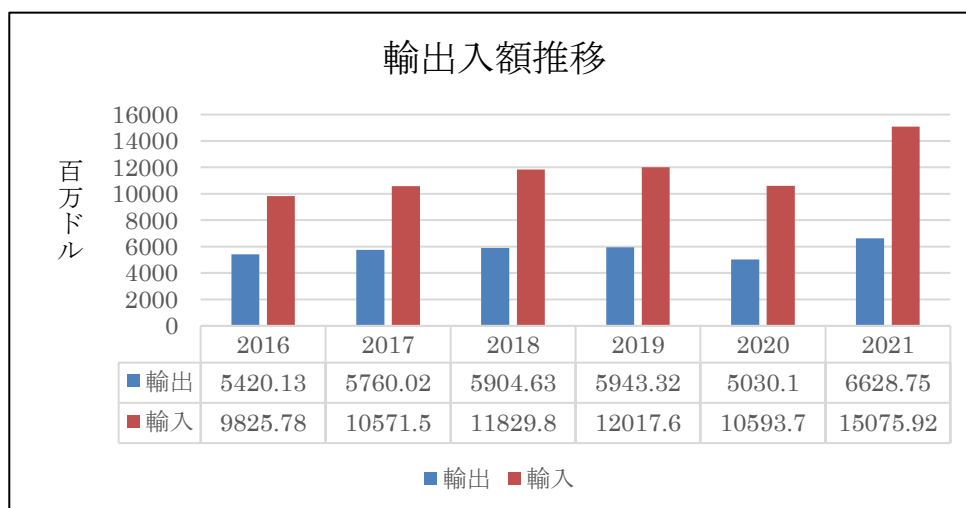
- ア パナマ : プラス 6.3%
- イ コスタリカ : プラス 3.4%
- ウ グアテマラ : プラス 3.4%
- エ ホンジュラス : プラス 3.1%
- オ ニカラグア : プラス 2.9%
- カ エルサルバドル : プラス 2.7%

5. 太陽光発電を利用したマイニング事業

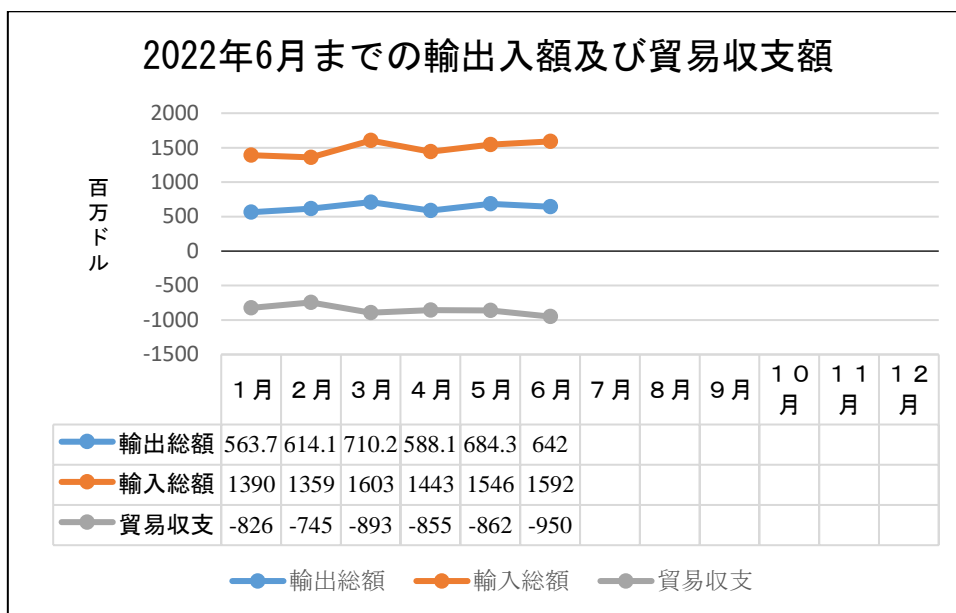
6 月 27 日、マジオルガ駐米エルサルバドル大使は、エルサルバドル人が代表を務めるスイスのコンソーシアムが、当国のチャラテナンゴ県ヌエバ・コンセプション市で行う太陽光発電所建設事業の定礎式に参加し、同コンソーシアムは同事業に 2 億ドルを投資する予定であり、同事業は当国への電力供給のみならず、ビットコインのマイニングも含まれていると述べた他、発電所の完成には約 8 か月かかる見通しである旨述べた。

6. 貿易総額

・ 2021 年の輸出総額は 66 億 2,880 万ドル (前年比 31.8% 増)。輸入総額は 150 億 7,592 万ドル (前年比 47.1% 増) となった。



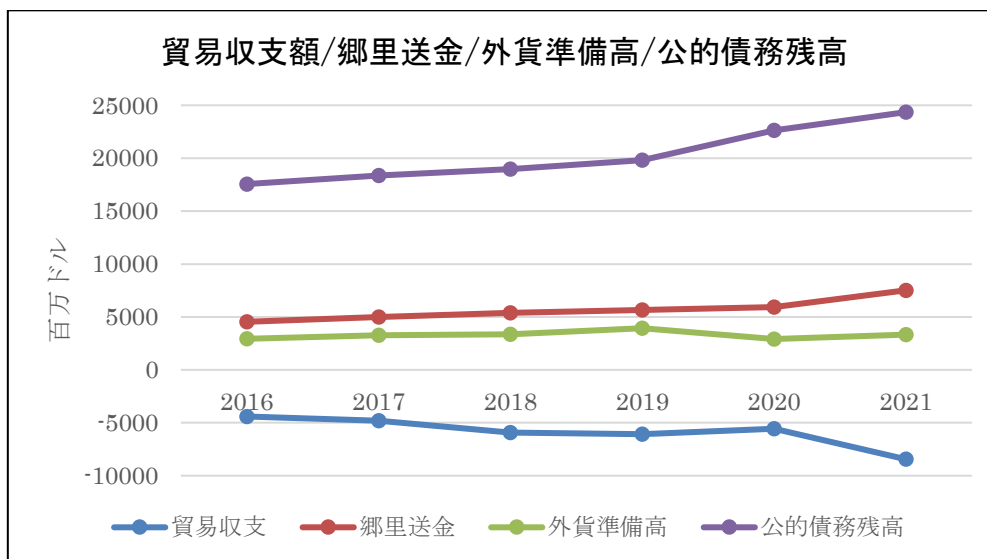
(エルサルバドル中銀データをもとに作成)



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

7. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

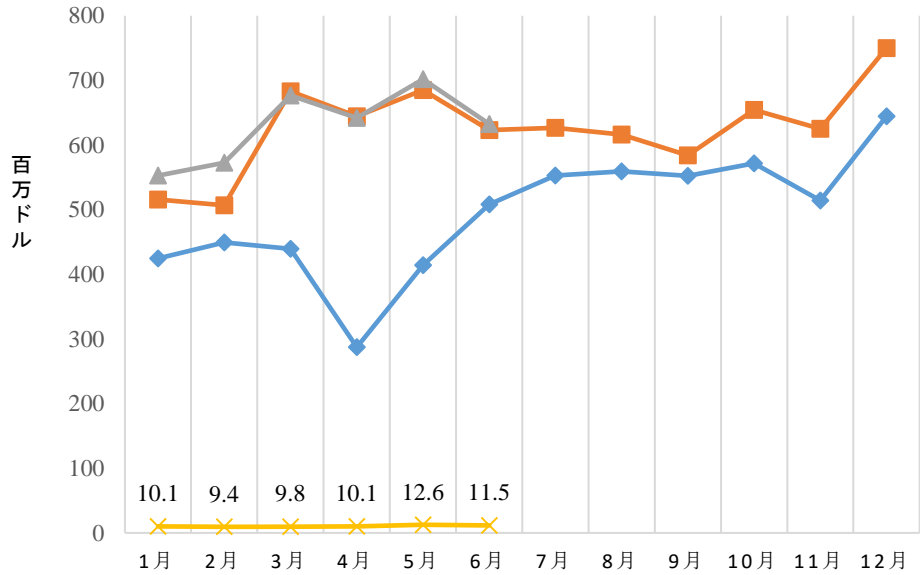
- ・ 2021 年度の貿易収支額はマイナス 84 億 4,720 万ドルとなり、前年より赤字額が 28 億 8,357 万ドル拡大した。
- ・ 2021 年の郷里送金額は 75 億 1,710 万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の 94.9% (71 億 3,050 万ドル) を占めた。



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

郷里送金額推移表（2020年～2022年）

◆ 2020年 ■ 2021年 ▲ 2022年 ✕ 2022年（デジタルウォレット）

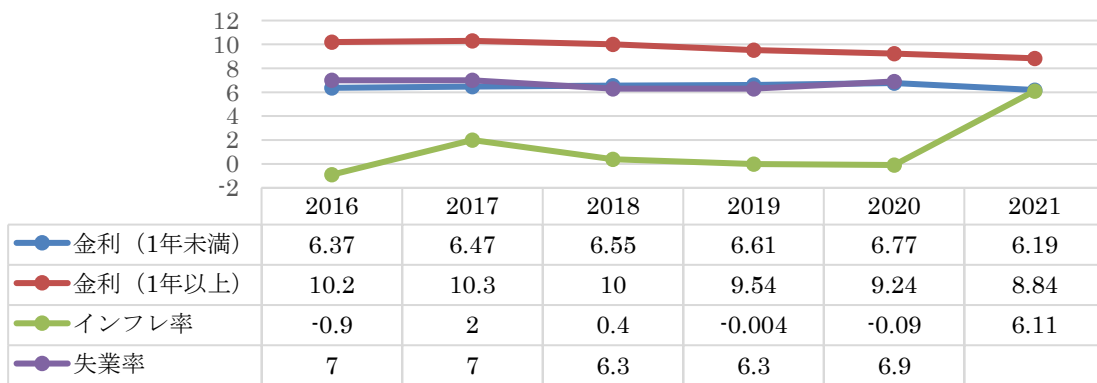


（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

8. 金利・インフレ率

・2021年のインフレ率はプラス6.11%であった。また2020年のインフレ率はマイナス0.09%であった。2020年の失業率は6.9%であった。

金利/インフレ率/失業率



◆ 金利（1年未満） ● 金利（1年以上） ● インフレ率 ● 失業率

（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

治安

1. 殺人事件の急増を受けた憲法で保障される権利の一時的制限措置の期間延長

6月21日、エルサルバドル国会は、憲法で保障される権利の一時的制限措置の30日間の期間再延長を承認した。ビジャトロ司法・公共治安大臣は国会において、憲法で保障される権利の一時的制限措置は犯罪組織に対して効果的な措置であると述べ、措置に反対しているNGOや国際機関を批判し、また、ブケレ大統領が刑事司法制度を見直すよう指示した旨言及した。メリーノ国防長官によれば、本件措置により、犯罪集団の拠点100か所が解体され、1日の殺人件数は0.89人に減少している。

2. 憲法で保障される権利の一時的制限措置による拘束者数について

(1) 憲法で保障される権利の一時的制限措置の発令以降、国家文民警察(PNC)と軍は、3月27日から6月11日までに、犯罪組織メンバー及びその協力者40,016人を拘束した。

(2) 裁判所は、犯罪組織メンバー31,868人(男性が27,461人、女性が4,407人)を刑務所に拘束し続けるとの判決を下した。また、国会が可決した法改正により、犯罪組織メンバーの刑期は20年から30年に、首謀者の刑期は40年から45年に延長されている。

(3) 刑務所センター(DGCP: Direccion General de Centro Penales)の統計によると、2022年3月初めまでに、全国の刑務所には39,538人が収容されていた。しかし、3月27日から6月11日までに、犯罪組織メンバー及びその協力者40,016人が拘束されたため、2か月ほどで80,000人以上と2倍の収容者数となった。治安と人権問題に関する専門家は、「過剰収容により、刑務所のシステムが危機に瀕している」と繰り返し述べている。

3. 国家文民警察官の殺害について

(1) 6月28日夜間、サンタアナ県のラ・レアリダド地区にて、パトロール中のPNCの3名が、犯罪組織「18S(スレーニョス)」に待ち伏せされ、銃弾にて殺害された。報道によれば、拘束された容疑者の一人は、憲法で保障される権利の一時的制限措置が発効される3日前に刑務所から釈放されていた。

(2) 同日、ブケレ大統領は記者会見を開き、犯罪組織との戦いを弱めることはしないと明言し、「国民のために命を捧げた3人の英雄に対して、犯罪組織は代償を支払うことになる」と述べた。また、同大統領は、今回の事件が発生したサンタアナ県を中心に、犯罪組織の存在が確認される地域に、従来以上の規模で治安当局を展開する考えを示した。さらに同大統領は、ブケレ政権の治安対策に批判的な国際社会に対し、被害者遺族及びエルサルバドル国民に対する連帯を表明するよう呼びかけた。

【観光地等における危険度レベル】

レベル 1: 十分注意区域	レベル 2: 不要不急の渡航中止区域
国立ダビッドJ・グスマン人類学博物館(MUNA)	サンサルバドル旧市街
ティン・マリン児童博物館	平生三郎公園
エルサルバドル美術館(MARTE)	プエルタ・デル・ディアブロ
プレシデンテ劇場	
サンサルバドル近郊のゴルフ場	
ベンゴア球場	
サンサルバドル市国立民芸品博物館	
クスカトラン・スタジアム	
サンサルバドル火山	
カフェタロン・フットサルコート	
ラ・リベルタ県のビーチ	
イロパンゴ湖	
サンタテクラ旧市街	
コアテペケ湖	
セロベルデ自然公園	
エル・ピタル山	
ラ・パルマ市	
サンタテレサ温泉	
スチト旧市街	
サンアンドレス遺跡	
タスマル遺跡	
カサブランカ遺跡	
サンタアナ旧市街	
オロメガ湖	
エル・ホコタル湖	
サンミゲル市	
オロクイльта市	

	窃盗	強盗	傷害	殺人	行方不明者	恐喝	車両盗難	車両強盗	強姦	交通事故死	誘拐
2022年 5月	445	143	229	23	43	183	47	12	227	109	0
2022年 6月	501	144	210	25	41	168	43	15	221	73	0

